

令和元年度第1回みやき町総合教育会議 会議録

招 集 年 月 日	令和2年 1月 29日 (水)		
招 集 場 所	みやき町 こすもす館 1F会議室		
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開 会	令和2年 1月 29日	午前10時00分 事務局長
	閉 会	令和1年 1月 29日	午前12時00分 事務局長
出 席 委 員 並 び に 欠 席 委 員	職 名	氏 名	出欠の別
	町 長	末 安 伸 之	出 ・ 欠
	委 員	碓 峯 雄	出 ・ 欠
	委 員	古 賀 正 道	出 ・ 欠
	委 員	北 原 コ ズ エ	出 ・ 欠
	教 育 長	江 頭 広 史	出 ・ 欠
委員及び傍聴人を除く議場に出席した意見徴収した関係者又は学識経験者の職氏名	中原小学校長 遠藤浩幸、北茂安小学校長 古賀康弘、三根東小学校長 馬場崎壮彦、三根西小学校長 福山信代、中原中学校長 石橋節二、北茂安中学校長 森田直樹、三根中学校長 牟田泰明		
出席した長及び事務部局の職員の職氏名	事務局長 高尾政伸、総務課長 大塚三虎年、こども未来課課長 黒田 栄治、学校教育課課長 北原順二、社会教育課課長 城野恵亮、学校教育課参事 上田一正、鶴田剛大、学校教育課専門主査 栗山隆行、社会教育課主幹 野田桂子		
会 議 に 付 し た 議 題 等	[1] みやき町教育大綱の見直しについて [2] その他		
議 事 の 概 要	<p>末安 みやき町の総合教育会議ということでご参集いただきありがとうございます。率直に申し上げて、教育現場には行政の長がかかわっては、公平な教育現場が侵されるということで、教育現場は校長先生、教育行政においては教育委員会という中において、今回法律が平成27年に施行されている、私はどういう立場で教育行政を行っていくかということ迷っているところではありますが、教育関係の皆さんの貴重なご意見を踏まえて、環境の整備をし、それが教育の向上、または教育行政の充実につながればという思いです。</p> <p>今回は法律上、行政の長が主催すると決まっておりますので、町として行政としてどのようなかわりの中ですしていくのか、ご意見をいただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>高尾 続きまして、教育委員会を代表して、みやき町教育長 大坪よりご挨拶をお願いします。</p> <p>大坪 教育総合会議ということで、その中で町長さんも来ていただきました。本当にありがとうございます。いろんな会議に出席しておりますが、最近みやき町は誇りに思います。まず環境整備ですね。ICT教育においても、すべてにおいて全国においても胸を張っていけると思います。これからは現場の先生、そして校長先生もお見えですが、まずは教育委員会がしっかりと後押しをしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。</p> <p>高尾 ありがとうございます。本日は教育委員会事務局の方が、町長からの発言にもございましたように、学校現場からの意見をお聞きしたいとのことであります。本日お渡ししております、レジュメを1枚めくっていただきますと、本日の出席者名簿をつけております。それからその次でございます、設置要綱第5条ではですね、関係者又は学識経験を有する者から出席を求めることができると決まっておりますので、校長先生方にもご出席いただいております。よろしく願いいたします。それでは議事に入っていこうと思います。議事に関しては、みやき町総合教育会議運営要綱第3条の規定により、末安町長に進行をお願いします。</p> <p>[1] みやき町教育大綱の見直しについて</p> <p>末安 それではみやき町教育大綱の見直しを議題といたします。説明をお願いします。</p> <p>北原 学校教育課北原です。どうぞよろしく願いいたします。それではみやき町教育大綱の見直しについてということで、説明をさせていただきます。資料の方を、まず資料の確認ですが、この冊子とみやき町教育の基本方針1部とみやき町子育てマップ、第二次みやき町総合計画、その他に女子サッカーのまち宣言にかかる資料をつけております。よろしく願いいたします。資料にもとづいて説明をしたいと思っております。資料の1と資料の2につきまして、法の改正により、教育会議の設置要綱と運営要綱を定めさせていただいておりますので、参考までにつけさせて</p>		

議 事 の 概 要

いただきます。それではみやき町教育大綱についてです。みやき町教育大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることを義務化されております。またこれを定めて、これを変更しようとするときは、総合教育会議にかけなければならないと規定になっております。平成28年2月の総合教育会議で委員のみなさんのご意見を聞きながら策定しましたが、策定期間が平成27年度から平成31年度までの5年間としておりまして、今年度末で期限を迎えることになります。つきましては教育大綱の見直しを行いたいと思います。大綱の中の記載事項については予算や条例など地方公共団体の町の有する権限にかかる履行についての目標や根本となる方針を策定するということとなされております。また大綱その他の教育関係でございまして、本町においては教育の基本方針を年度当初にさだめさせていただいておりますが、前回の大綱の策定ではこの基本方針を基本とし、方針の部分についてみやき町が取り組んでいる子育て支援の町宣言あるいは健康長寿の町宣言というような各種事業との整合性を図りつつ策定とさせていただきます。

今回は平成29年3月に策定されました、第二次みやき町総合計画において、大きな改正ではございませんが、一部改正を提案したいと思います。改定の内容については、先ほどの資料のレジュメの最後の方、資料の5があるかと思いますが、横向きの資料でございます。

まず、1P目ですが、はじめに、大綱趣旨ですが、内容自体はあまり変わらないと思いますが、H28年1月の大綱策定から5年間が経過したために、第2次みやき町総合計画に合わせて、新たな5年間のために大綱を改定することと記載させていただいております。それから今までの大項目の2のところの、構成と期間のところを位置づけ、計画のところと、見直しのところと分けて記載させていただいております。その方が分かりやすいかと思ったところです。3番の計画期間ですが、令和2年度から令和6年度までのこれまでどおりです。そして内容の部分ですが、総合計画の冊子がありますが、P33に教育に関わる記載がありまして、基本目標をいきいき輝く人づくりとありまして、学校教育が生涯学習、スポーツ、文化、芸術、歴史、伝統にかかる主要施策がうたわれております。それでは40ページに「いつでも学び、自己実現できるまち」を追加記載されておりまして、これまで歴史伝統、国際地域間交流にかかる部分があげられておりませんでしたので、総合計画と整合を図るために、この部分を反映させたいと思っております。大綱の基本目標で、国際地域間交流の推進というものを5項目目として追加したいと考えております。最後のページになりますが、国際・地域間交流のところ、国際感覚あふれ、世界に飛躍できるグローバル国際人を育てるため、学校などでの外国語学習などの充実を図るとともに、国際交流事業を促進し、本町の国際化を推進することや、周辺市町や国内他地域との多様で多彩な人・モノ・情報の交流を通して、将来さまざまな分野で、グローバルに活躍するために必要な教育に力を入れる、ということで記載したいと思っております。そこに2項目ほど挙げております。大綱の表紙のところにも、総合計画の目標のところにもいきいき輝く人づくりを表示してはどうかと思ったところでございます。その他にも文章の中を修正しておりますが、新旧対照表のとおりとなります。右側が今までの、左側が新しい提案となります。それで次に資料4でA3の資料があると思いますが、今まであった体系図でございまして、これも大綱の見直しに伴って、個別重点事業についても併せて改正したいと考えているところでございます。大綱の中の重点事業につきまして説明させていただきます。主要施策につきましては、これまで実施してきたところでございますが、これからも引き続き継続していかなければならないと思っております。具体的に資料4に、体系図として取りまとめているところですが、現在この主要施策をもとにそれぞれの事業に取り組んでおります。事業につきましては、いろいろなものがありますが、資料の右側の方に、今32項目で記載しておりますが、重点事業ということで、挙げております。事業名を挙げておりますが、事業名は色分けで表示しております。事業の実施状況につきましては、資料の右側に現在の段階で実施済みのも、あるいは継続で実施しているもの、今後実施予定ということで、矢印と丸印で表示しております。ソフト事業につきましては矢印でハード事業と、施設整備に関する事業は実施済み、実施中、または今後予定ということで、丸で表示させていただいております。資料の下の方に、計画の位置づけを記載しております。右下の方に、推進組織を表示しております。町や教育委員会、小・中学校・幼児教育機関、外部団体との連携を図りながら、大綱の基本目標に近づけるように実施していきたいと考えております。それでこの資料4の変更点でございますが、基本的に前回同様となっており、基本目標の一番下に「国際・地域間交流の推進」を新しくつけており、主要施策のところ、12番目ですね、「グローバル人材育成の推進」をこれに追加しまして、個別各種事業の一番下に、33番目ですかね、「小・中学校における外国語教育の充実」を追加したところでありま

議 事 の 概 要

す。小学校における外国語は2020年度から本格実施されることもあり、ALTの配置にも配慮しているということで、項目としてあげたいと考えたところでございます。その他に上から3番目の「学校給食再編強化事業・食育の推進」が実施中と追加したところでございます。自校式給食室の改修工事を進めております。中原小学校と北茂安小学校が完了しまして、あとは北茂安中学校のみとなっております。それと左下、みやき町教育大綱がみやき町教育の基本方針を参酌するようになっておりましたが、お互いに参酌する方向としたところでございます。それ以上に変更箇所はございません。説明は以上でございます。

末安 はい。これに対する意見はありますか。

北原 それでは大綱の見直しについてですが、内容としては先ほど説明したとおりです。今回変えた方がよい箇所とか、そもそも良くないとかあるかもしれませんけれど、ご意見を聞かせていただければと思います。第二次総合計画に合わせてこれまでかけていたものを追加したという形です。で、やっていることは今まで同様で継続していく必要があるのかなということです。

末安 具体的にどのようなことに優先順位をつけて、みやき町の教育行政の充実を図るかについてはその他の中で意見交換が主になっていくかと思えます。ご了解いただければ先に進めると思えます。

古賀委 A3の大きい紙についてですが、ハード的な面について書いてあって、ソフト的な面は学校であるということだと思のですが、そればかりではないように思えます。例えば、ICT環境整備と書かれていますが、今度の文科省の学習指導要領の改訂で出てきているのは、プログラミング、外国語学習、郷土学習のグローバル化だと思のですが、プログラミング学習というのが全然入っていない、入れるとするならばICT環境整備の下あたりに入れておかなければならないと思います。というのも、今、タブレットだけではプログラミング学習ができないわけではないのですが、もう少し画期的なもの、以前教育長さんと見に行ったんですが、そういう教材、資材に少しお金をかけないと、プログラミング学習が発展するのは難しいかなと思しますので、どこかにICT環境整備の下あたりにプログラミング学習についてを入れるべきではないかと思えます。それから郷土学習についても、地域との交流はどこかの学校でもやられていると思うんですね。社会教育とも関係しますけれども、いろんな諸団体がありますよね、それぞれ分館もありますし、老人会もありますし、サロン活動もありますし、そういうこともどこかに、書いて言えば、総合的な学習を活用した地域密着事業の展開というところに書かれていると思いますが、そこまで書くと学校の範囲を逸脱するかと思えますが、町として、そういう教育大綱を作るならば、そういうことも含めるといいかなと、結局のところ何を目標しているかと言うと、やはり外国の方とのコミュニケーション力を高める、そしてプログラミング学習についてもコミュニケーション力を高める、外国語学習についてもコミュニケーションとか入れなくていいのかなと、私は思いました。以上です。

末安 貴重なご意見をありがとうございました。事務局も予め、教育委員さんや校長さんに資料を渡しましたか？

北原 いえ、今日初めて渡しました。

末安 それは酷です。今日渡して、これをみて何かありますかというのは、難しいでしょう。少なくとも3日前に提示しないと、質問できないですよ。正直言って。今日、結論を貰わなければいけないのですね。

北原 できればそう思っていましたけれども。

末安 それは無理ですよ。いいものできない。事務局が総合計画を早く作らないと、格好づくりをしているようにしか思えない。いいものを作るなら、事前に先生や教育委員さんに見ていただいて後日ご意見を文書などでいただいて、お互いに共有して、これとこれは計画に入れようとか、そういうやり方をしないと。とにかくいつまでに作らないといけないのですか？

北原 今年度中ですね。

末安 あと、1回は可能ですか。事務局でいいものを作って、いい教育環境を設置しなければならないという使命感はあるわけでしょう。

北原 そうですね。あらためてもう一回実施したいと思います。

末安 まずは今日は説明で、こういうことを事務局は思っていますよ。今日言われたことを聞いて、次回の計画を諮って、どれとどれを入れましょうかなど共有すればと思いますが、どうですか。

北原 それぞれの意見を聞いた上で、入れた方がいい分と、必要ない分を選択必要かと思えます。

末安 そういうことではいかがでしょうか。今日もらって今日意見を言うというのは、大切な計画ですからね。

議 事 の 概 要

碓 感じてたことですが、町長さんがおっしゃったように、この項目自体は相当網羅されています。選択された気はしますが、あまりにも項目が多すぎて、例えば上から5番目、6番目、7番目、校内研究授業と指定校事業、これは同じものではないかなど。同列に一緒にまとめていいものではないかなど、私は思ったんですよ。そんなものをどうでしょうかということ、もう少し煮詰められたほうが良いような気がしておりました。以上です。

末安 ほかに北原委員、江頭委員どうですか。

北原委 新しい項目等のところで、国際地域間交流の推進が追加されておりますので、本当にこれはいいことだと思います。それに関連して、右下の外部団体の件ですが、みやき町では国際交流会というのが30年前からあります。その国際交流会というのが、どうしても外国人との交流をしたいというのが、1億円創生事業で、北茂安が外国団研修事業を行いました。それをもとに国際交流会が作られております。毎年、いろんな国の方に何人か来ていただいて、コミュニケーションを取ろうというのが、主になっております。本年度から外国の方達に日本語の学習支援をしようということで、みやき町のスタートアップ事業をすすめておりますので、それについても国際地域間交流の中に入ってくるのかなどと思っていますので、団体のところにも入れておいた方がいいかと思います。

北原 国際交流会ですね。みやき町がつかますか。それはどこに確認すればよろしいですか。

北原委 まちづくり課ですね。

北原 確認したいと思います。

末安 橋本さんのね、何回かしてもらったよ。いろいろな外国の方を呼んで。

北原 入れたいと思います。そこは確認をして。

末安 よろしいですか。江頭委員。

江頭 先ほどの赤で書いているところですね。事業名の小中学校における外国語教育の充実ということですが、どういう風にしていくかということで、自分は具体的にどうすすめるか内容を考えているということで、確かに学校教育課で、子どもたちに刺激を与えなければいけないと思います。刺激を与えるには、国際交流の中に外国人がいっぱいいますので、その人たちをいかに呼ぶかなんですね。ここに住んでいる親がいますよね。親を学校に呼んで、子どもたちに自分たちの母国の話をしたり、そういう内容からいきはじめて、どんどん深めていくとか、それが一番初めになると思うんですよ。それから具体的にその人たちがどうやって動いていくのかとか、そして一つにしていくための方向を考えていくとか、学校の中いかに導入していくかなので、とにかく子供たちに刺激を与えるというか、なんとか外国語を勉強したい、しなければならないという内容を教える一つの機会でもあるし、そういう内容をそれをいかに子どもたちに伝えるかという内容になってくるし、自分がやっている内容をいかに、例えば企業による外国人達をどのようにみやき町につないでいくか、そのためには言葉の壁もありますし、文化の弊害もありますし、そういう内容もありますので、それを一つ充実していくために、一つ一つ乗り越えていかなければならないので、まず最初に親を親たちをいかにして呼ぶかなんですね。子どもたちとの交流を通じて、国際理解とか、ぜひ最初にそういう流れがほしいなと思います。これまでの自分の中にあるのが、まず三根で、10年くらい前から大きく変わっていないんですよ。だんだんと変わってきたというのを自分ではしてきたので、今現状で成人式でこの子たちが丁度体制が変わったときですよ。二十歳の子たちが、中学の時に変わった最初の子どもたちですよ。この子たちが結果を出してくるかというか、やはりそれがトップになって東大に行くと、東大で3人くらい友達がいると、悪い時と良い時の時が丁度環境改善を図ったその子たちの時で、なんとか変えようとしなければならないと、だからそういう現実こういう計画が生まれてきたのではないかと、だからこそ三根が変わってくる、一つのパターンができたわけですね。だからそれをこれから一つの基盤ができてきて、その流れが残っていると、落ち着いた環境の中に知性もそこに出てきたわけですね。で、現実的が一番大事なことで、教育長も同じだと思いますが、いっぱいいろいろなことをされてきましたし、それをこれからどうやっていくかという、一つの大きな平面的な土台ができたんですよ。結果が出ているので。土台をいかに、国際化に持っていけるかですね。だからこれをいかにという願いをこめていますので、とにかくトップをとって東大に行くと、そういう動きをされていて結果も出たし、今の現実がこうなったという、みやき町の中の大きな動き、その中にみやき町の発展があるというかですね、だからそれをいかにしていくかということに全力を傾けていかなければならないと、その中にこの外国語教育があると、外国人の人をいかにしていくかということを書いてきました。今回こういう一つの国の政策をされたんで、それをうまく利用してほしいなと思います。その中で、外国人が200名以上、みやき

議 事 の 概 要

町の中にいかに引っ張ってくるかですね。それでもっと向上させていくというか、子どもたちに意識向上させていくという環境づくりができればいいなというふうに思っています。長くなってすみません。

末安 私としては学校は学校現場の校長先生や教頭先生、教諭の方、教育行政は教育委員会の方、そこを積み上げてきてもらわないとね。もうすこし議論を教育委員会として、みやき町の教育行政がどうあるべきかを、一つは教育委員会の中でもう一回議論していただいて、これは一つのたたき台ですから、まとめてもらいたいと思いますし、学校は学校として計画がないと実施できないわけなんですよ。おおもとの計画をきちっと方向性を計画の中に盛り込んでそして具体的に何から優先的にするとか、この後に、健康管理の中にちょっとお話をしようと思っていました。熱中症関係で国も普通教室だけでなく、体育館とかそういうところも必要じゃないかと言われてますし、私としては学校給食の中に、地元の食材を取り入れた献立をしていただきたいし、その食材を高齢者の方に作っていただこうと、その他に翻訳機を、外国人の方が増えておりますので、多言語対応できるような方もいらっしゃるかもしれませんが、数か国語、英語だけではなく、翻訳機を試しに取り入れてますから、学校の先生たちとか希望されるお子さんたちにもお貸して、翻訳機で語学力を向上させる、外国の方とのコミュニケーションを図る、そういう翻訳機が必要なところは準備をしたいなと思っています。学童スペースも狭くなってきたので、今後どうするかとか、そういう話を聞きたいと思えますから、お一人お一人意見を聞いたのちその他の中で具体的にお話をお聞きした上で、次回まとめあげたいと思います。事務局として、教育委員会の集約、学校の先生方の計画に対する集約、それを箇条的にもいいですからね、今提案されたご意見を全部まとめあげて、それを計画としてどう取り入れるかという協議を次回したいと思っています。もしくはそのご意見をふまえた中であらためて、提案をしてもらおうと、そういう方向をお願いします。いいでしょうか。それで、一人一人ご意見を聞きますので、中原小学校の校長先生からお願いします。

遠藤 失礼します。どれも大切だなと思っているところなんです。学校現場を全部鑑みて、今課題的なところといいますと、やはり落ち着きのない子供たちが非常に増えているなというのが、やはり一番思うところ。そういうところに対して、頑張ってるやるところなんです。でもなかなかうまくいっているところ、なかなか進まないところもあります。そういったところで、今働き方改革とかも言われますが、そこでやはり一番大切になってくるのは人、人が学校の中に一人でも多く居て、子どもたちと向き合っていければいいなと思うところでございます。ですので、生活支援員さんとかICT支援員さんの配置とか非常に今助かっているところでございます。そういった方々のご協力を得て、職員も一緒になって子どもたちに向き合っているところなんですけれども、やはりここに書いてありますが、チームティーチングの推進とか、そういうところ、やはりチームで当たられるように、人員配置とかをさらに検討していただければ、さらにまた良い教育ができるのかなと言う風に、最近ちょっと思っているところでございます。以上です。

末安 ありがとうございます。

古賀校 理念のところですが、地域と共にあって、地域が何を指すかなって。書いてあることは学校、地域、家庭とか、いろいろ網羅されていると思いますが、何か焦点化されていないんじゃないのかなと。教育大綱がどういうものかということ自分はまだわかっていないのですが、地域と共に育むということであれば、地域に関するものに絞った事業になるのかと思うんですね。例えば先日の校長会ではコミュニティスクールのことが出ましたが、今コミュニティスクールをこれからということですので、そこがおおもとになってくるのかなという風な感じを思っているということです。事業面のところで、どうしても学校レベルのもの、レベルの温度差があつて、なかなかこう、なんでもかんでもというよりも、私は地域と共にということであれば、すばらしいみやき町のいろいろな事業のされていることを整理しながら、これからの5年間どうしていこうとか、先ほど言われた外国語教育も大事だろうし、ICTが大事なんですけれども、それをどうやってですね、地域の中で育てていくかということをもとめることが大事ではないかなと、大綱に関しては思いました。以上です。

末安 ありがとうございます。

馬場崎 重複は避けますが、先ほど、遠藤校長先生が「人・モノ・金」と、校長がカリキュラムマネジメントで、学校教育活動を活性化すると、国の方もうたってるきているということでございますが、お金の部分に関して、施設設備についても町の方からも心から良くしていただいているなと思えるところです。これは要望というか、一つの事業となるか分かりませんが、学校の裁量で

議 事 の 概 要

自由になるといいますか、校長が判断してこういうふうなものに使いたいというものがあれば、非常に今学校においてこれから必要なものということで、お金の部分で助かると、そういうものがあればという風に一年間思っすぎておりました。教育大綱につきましては意見を言わせていただいて、これからより練られたものになっていくかと思いますが、根底にあるもの一つとして、人権同和教育があるかと思いますが。社会教育の部分でも充実をはかっておられるところだと思いますが、ぜひそういう根底にあるものもふまえて一つとして考えていただけたらと思います。その中の一つで男女混合名簿の実施があり、教職員の方も自覚をもってよくしていかなければならないものかなと思っておりますので、私の気づきとして申し上げたいと思います。

福山 ほぼほぼ言われていましたが、「いきいき輝く人づくり」のためにということで、見ていくとすごく素晴らしいのですが、意味があって目標があって、その目標の施策もいきる力を育むかとそしてそれがずっとつながっていくと、もっと授業で「地域と共に」ここが大事だと、これはいらぬとか減らしていけるのかなと思います。学校もすごく今、いろんなことをしなくては行かなくて全部すると良いことなんです、いいこといいことし過ぎると、オーバーフローしてできないので、みやき町として、こことここに力を入れようってした方が、学校もじゃあそこを頑張りますということでやりやすいなと思います。町でこんなことができますよとか、ありますから来てくださいということで、いついつお願いしますと、4年生はこれにきます、5年生はこれにきます、と最初決められたことがあって、ちょっと私が一番気になったのは、地域の人たちが多少お客様のにいっている、自分たちがぜひこんなこと学ばせてくださいとか言うような、自分たちで学ぶ意欲をもった学習をさせたいなと感じておりますので、「こんなことができますよ。」と、いって、こっちから子どもたちにお願ひさせて、来ていただけるような、地域の団体の活動とかもとあるとありがたいかなと思います。細かいことで一個気になったのが、事業名の水色の部分の補助教諭と書いてあるんですが、これは何かなと思いました。支援員さんとかICT支援員さんとかほんと助かっています。こういう人たちがいらっしやることで、学校はだいぶスムーズにいっています。トイレのUD化ですが、トイレの段差を良かれと思ってなくされていると、今度は小さい子はお漏らしがあったときに、ザバーっと水を流せないんですよ。段差なしのトイレはふき取るだけなので、くさいです。男の子が良かれと思って、洋式化された市町があります。ですが、男の子は早く遊びにいきたいので、座らずにするそうです。汚れまくっているそうです。そこまで考えると、言葉としてはいいけれども本当はしない方がいいですよということも、いろいろあるのでよろしくお願ひします。

末安 そうですよ。ほんとうはこれ学校の先生に話し合っって計画を作ってもらわないといけない。貴重な現場の実情を知って。中学校の石橋先生お願ひします。

石橋 まず、教育委員会がいろいろしてもらっています。例えば国際地域間交流ですかね、推進、グローバル人材の育成ということで、すでに例えば主張大会の時には国際交流課ですかね、そこから講師を派遣して、その方との交流をすとか、体系だけでいきますと、グローバル推進事業としては、外国語教育の充実だけになっていて、例えば国際交流活動の推進とか、グローバル人材育成事業とか項目を挙げなければいけないのかなと思いました。また、ICT環境整備だけ挙げていますが、これはまた、古賀教育委員さんからも言われましたが、ICT環境整備及びまたプログラミング教育等、ICT利活用教育の推進とか、そのこと文言としておく必要があるのかなと。あと、大変ありがたかったのが、小中連携で予算を付けてもらったこと、三根、北茂安、中原と異動してきましたが、それぞれに2年間ずつ予算つけてもらっって活動してきましたが、本当にその二年間はありがたかったなと思っっています。今、中原は予算ついてます。以上です。

末安 良い会議ですね。今までこういう意見などを教育委員会を通じて聞いていなかったの、よくわかります。

森田 私も一番助かっっておりますのが、教諭補助ですね。2名教育委員会から来ていただけてます。普通学級に入っただけいたりしてはいますが、一人の教諭で一斉授業をしながら、非常に難しい状況があります。来年度は特別支援学級の生徒が増えるという状況になっておっまして、そういう意味では生活支援員、特別支援教育の支援員を今回あげさせていただけておっますが、そういうところを今後深く必要になってくるかと。それとまた、教職員自身も町民も併せて、特性のある子どもたちへの理解とかする研修も必要になってくるかと思っいます。確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の推進とありますが、三つ県の教育施策を教育大綱の中に、大きなものとして三つ挙げてありますので、これで一つというのはあまりにもまとめすぎではないのかなとおもうところもあります。今学校評価の自己評価をしているところですが、学校評価の計画をする上では、今年重点評価として重点はということで、今年は5つ重点目標を挙げました。今回

議 事 の 概 要

はどれをするかを中心にいくのかと、二重丸が入ったりするのがあれば分かるのかと、優先順位が分かる気がします。

今のお話の中で、外国人が 200 名いらっしゃるということで、具体的な数字を出していただいて、ぜひ優秀な人材はということで、そういう意味で国際交流事業の推進とかですね、ざっくりと外国人の設置といえはすみませので、そういう具体的にしたいと思います。

牟田 みやき町の教育は県の中でも優れたレベルでいっていると思います。そして、理念のところ、「地域とともに育む」「みやき町の教育」と挙げており、すでに実現されている部分も多いのではないかと思います。したがってそれを上手く図に表す工夫というのがあるといいなと。例えば青少年サポーターの方、直接学校に入っておられるわけではありませんが、すべて中学生になっても顔と名前を憶えていただいて、朝も挨拶をしてくださるということは、実は学校は支えられているんですね。これ、図の中に表れているのか、いないのかという、今あるものを上手く表すということも大事だと。そのために、この色をたくさん使われておりますが、色に意味があるのか、意味を持たせる方がいいと思うんですよ。学校教育に関わるものは何色ですとか、そういう見やすくする工夫があると思います。それから言葉の使い方としては、事業、施策に関する名前と教育の内容、コンテンツに関するものは違うと思います。例えばグローバル人材育成の推進、小中学校における外国語教育の充実は事業名なのか、中身になってくるのか、中身になってくると、これは学校がうけることになってきます。中身としては先ほど言われたプログラミングもそうですし、教育長さんの胸にある、SDGs の国連総意ですすめようといわれる、これも中身なんです、重要なんですが事業名に入れるのか入れないのか、そういう区分けですよね。そういうことで、すでにあるものを見易く図に表す、そうするとまた見えてくるものがあると思います。

末安 おっしゃる通りです。先生や教育委員の方からのご意見を頂いて改めて感じたのは、もう一度、絵にかいて、上田先生、学校のご意見をまとめて、教育委員会は教育委員会でご拝聴したものをまとめて、学校として基本的にこういうものを町内の学校長がこういう方向で言っていると、それと、それぞれの特色のある校長の裁量権とお話をいただきました。私もそれぞれの学校に特色があってもいいと思っているんですよ。皆同じことをするよりも、基本的に同じようなことをするけれども、これだけはちょっと特色を出したいと、学校長の思いもあるでしょうから。それに対する予算等で提案してもらえれば特別枠でつけることも検討していきますので。今日のところはご意見をいただきましたので、とてもこれだけで計画書を作ったらもったいない。もう一度ご意見を、今日の資料を持って帰ってもらって、学校の中でもう一度考察してもらって、その中で再度修正案みたいなものをご提案いただく、そのとりまとめを教育委員会がやる、あと 2 回か 3 回します。町としての思いというのものも、少し先ほど触れましたが、私としては子どもさんの健康と体の健康を、重点的にやっという、外国語とかは学校にお任せして、町としてはこの点を集中してやっという思いがありますから、その話をちょっと聞いていただいてよろしいでしょうか。

まず、メディカルセンターみやきの資料をご覧ください。それをどこに作るかといったら、B & G プールの北側に造成工事に入っております。これはどこか作るかといえば、みやき町が作ります。みやき町がなぜ作ったかといえば、全国にふるさと寄付金をいただいておりますが、そのお金で、寄附項目に統合行政に関する項目とか、ここは市村清さん、リコーの創設者の出身地でもありますので、統合事業に係る事業ということで全国に募集をかけておりましたが、トータルで 18 億、全国から寄付がありまして、そのお金で町がいったん作って、そのテナントを募集する、二十数事業入ってきます。メンバーについては、どういう業態が入るかといえば私 40 年前、西洋医学的な対症療法とか、注射とか薬とか、抑えるものであって、病気そのものを治すのは自分の免疫であって、九大の先生たちの勉強会によく行っていたのですが、商店とかしていたので参加させていただいておりました。九州大学のドクターの中にも気功や鍼灸を用いて、急性患者の後をフォローしている先生たちもそうですが、医者としてはこういうことをしたい。患者さんたちを治したい。しかし、患者さんたちは受け入れず、製薬メーカーが支持するものを使っている。モルモットのような治験データになっている人がいる。がんについても切除あるいは抗がん剤、放射線治療、抗がん剤で治る人というのは、はっきりいって、今抗がん剤 300 種類近くありますが 1 割か 2 割です。今遺伝子検査をして分かるようになってはいますが、今の抗がん剤というのは、がん細胞というのは今のコロナウイルスと同じで常に変異していきますから。追いかけても、追いかけてもがん細胞は増えていき、抗がん剤ではとても難しいもので、そうすると抗がん剤の副作用で苦しんでいる人が半分以上です。私の家内もそういうことで、元気なうちか

議 事 の 概 要

ら、ある程度健康的な医療的な情報を素人が得るだけでも、その人の健康寿命が変わります。よってこの中に入るのは行政の包括支援センター、それから、訪問看護師などの医療法人、それと、社会部活青少年と、町内で障害者の就労支援、言葉で言ったらたくさんの事業体が入りますが、プールを利用してもらいたい。子どもさんが。なぜなら、プールのような酸素運動が、人の体に良いから。そしてプールだけでなく、天神会という、久留米にある、そこから8年前にこういうものをやりたいという依頼があり、一緒にやろうということで準備してきて、今、造成工事に入っております。天神会はリハビリ関係が入って、その近くに横でヨガをやる人を作り、それとアロマとか鍼灸整骨院、DHCとか調剤薬局のMIZUとか入りますし、管内の医療機関、先進医療とか医療機関で情報交換もできますし、代替療法といって花粉症は薬で抑えるのには限界があるので、針とか漢方薬とかで治す先生がいらっしゃる。また、胎盤をうめこんだプラセンタ療法というのがあって、免疫療法で。高濃度ビタミンCの点滴でがん細胞と戦う正常細胞の力をつける。温熱療法でがん細胞を40度以上で死滅しますから、ハイパー療法でも入っています。その中で主治医とか医療機関だけでは皆さん治る確率は高くない。それだったら、まず医者に頼りながら自分の中で食生活なり代替療法の情報を入れるだけで、併せた治療をすることで、病気を克服する方がたくさんいらっしゃると思います。こういう情報を発信する施設、プールに来た人もスポーツジムに来た人も、アロマに来た人も、包括に来た人も、DHCに化粧品を買いに来た人もその中で医療情報が、また相談コーナーも設けますので、そういう情報が得られるところです。いろんな世代の方が楽しめる施設ですので、そこが各拠点となって、町全体を統合利用というか、日常生活の中で自分の健康寿命を延ばす、というようなことをやってもらう、という取り組みに入っていきます。

さて長くなりましたが、学校ではどういうことをしてもらいたいかという話をします。熱中症に対する対策は教室に冷房を入れています。今後体育館など、必要なところに対しても検討しなければならないと思っています。それから、インフルエンザが非常に流行している。子どもの免疫、体力が低下している。これからもっと新型ウィルスも気候の変動とともに出てくる。心の不安定な人、体調不良な人が多い、学校現場として通常の教育の範疇を超えた対応をせざる得ないということが、想定されます。よって町として取り組みたいのは子どもさんの心とからだの健康。それをどうするのかということの話をします。今いろいろな大学とコラボレーション、連携してやっていくのですが、一つは九州大学と連携していく。九州大学のアロマを研究している教授がみやき町とかかわりをもって来ていて、アロマ成分とはどういう成分があるのかということ、まず森林浴、心落ち着きますよね。ヒノキやスギとか、その成分を抽出したものを今みやき庁舎でしていますが、心が落ち着くアロマ成分があります。それを、教室の中で活用できないかと。学力向上に活用できるアロマオイルがあるのではないかとということで、韓国は日本の杉ひの木を大量に輸入しています。何に使っているのかといえば、勉強部屋と寝室です。やはり学力が伸びたというデータがあるということです。今化学物質で汚染されたすべての建築建材の中で、これから発する化学物質がいかに健康被害とか、精神的不安定なものもたくさん挙がっていると、知っている人は知っているんですよ。心の不安定の要因はたくさんありますが、科学部室の接種のし過ぎが、がんもそうですけれども病気の要因となっている。それを改善するためにアロマについては九州大学のアロマの先生とコラボして、ソニーのウォークマンを開発した社長が今、健康家電をみやき町で作ろうということで、今年の11月と12月にすでに作っています。これを学校現場の中に加湿器を、医療用にも使われている Purio という水ですが、病院ではやけどとかアトピーも含めて、この水だけ、無害です。このメーカーと家電を作っているメーカーとをみやき町で健康家電を作り実用化に向けて入ろうとしています。インフルエンザが流行する前に教室にこの水を10倍に希釈したものを試しにやってみたいと思っています。無害ですから、例年のインフルエンザの罹患率とどう変わってくるかというのをみさせてもらって。音もしませんし、普通の加湿器と違って小さいです。湿度で色も変わりますから教室がどの湿度かということの色で変わってきますし、管理もしやすいです。夏場からインフルエンザ予防ということで、夏場のインフルエンザも流行るみたいで。アロマについていきなり学校現場ということではありませんので、各家庭で喘息とかアトピーとか花粉症とか、心がちょっと不安定な人に、夜眠れないとか、睡眠導入剤を使用している人とか、脳をだまし続けると、脳細胞が働きすぎて認知症とか、より不安定になる。アロマ成分という自然の成分で、お家の中の空気だけでも健康にしようと、試しにやってその大学とデータを文面としてまとめあげていこうと思いますので。今後学校関係にご理解いただいて教室とか職員室に置こうと。職員さんの健康補充になるのではないかと。この水はカネボウとか資生堂の化粧水の原液です。原液を薄めたものが皆さんの5000

議 事 の 概 要

円出して買われているような液です。この開発メーカーとみやき町と水メーカーと組んで、みやき町の水を売っていく。みやき町の水で還元水にしたり、水を作ろうというプロジェクトをやっていきますので、正直言ってカネボウとか資生堂と比較してはるかに安く本体も水も入ってきます。町内で多くの人に活用していただいて、学校、お家、オフィスの空気をかえてもらうことで、人の健康保持増進を図ろうということは今後ここを拠点に広めていきたいと思います。今年インフルエンザが流行る前に。教室に、もし職員室で試しにしてみたいという校長先生がいたら、これをお貸しします。それを今年やってみたい。精神的に不安定な方がちょっと多いところは、アロマ成分で九州大学のエビデンス(証拠)もあります。その成分を使った、ものもあります。決してニオイが気になるものではなく、調整ができますから、むしろ落ち着く感じがします。ぜひ、今みやき庁舎で試しにつけておりますので。それと学習力が向上するようなアロマ成分をすでに開発されている。もっと学力を伸ばしたいと思ったら、家庭内家電もありますので、それをお貸ししようかなと。家庭内の人間関係とか、職場関係とか、あまり良くないところがあれば、アロマを利用する。九州大学の先生方がその活用を研究しているものをつくったけれど、実用化できていないで論文だけで終わっている。その研究したものを実用化できないかという相談を受けて、私の提案にもとづいてやろうかとなっています。今、昨日もたくさん問い合わせがっております。

そのほかに今カゴメという、トマトケチャップの。カゴメさんから、お話があって、こういうことをすればいいというお話があって。子どもさんの野菜摂取量が少ないということから、健康、心も体も。野菜の中に含まれるミネラルビタミンが不足すると、精神作用が大きく不安定となったり、野菜の測定器もあるんですよ。それを学校子どもさん全てに測定してもらって、成績表が出ますから。その数値を保護者の方に、「お宅のお子さんは標準よりちょっと野菜が少ないですから、夏休み期間野菜を摂ってください。二学期にまた測定します。」と簡単にできますから。あまり改善されない、「カゴメの野菜ジュースを1か月お試しで使ってみてください。」そして数値がどうなるかと。学校だけでなく、全町民でむしろやっつけよう。カゴメ成績表で野菜摂取量をアップさせるか、上がっていけばその人に必要なミネラル野菜摂取量を摂っている結果ですから、そのことで健康実施していこうということをやろうかどうか、カゴメもやってくれということで、資金を出すと言っていますから。

それともう一つ、これは慶応大学のドクターが開発されて、すでにそのエビデンスがしっかり証明されております。その実用化について損保ジャパンとか生命保険会社が出資した会社ですけど、これを經由で相談がありまして、唾液でがん検診、今がんは発症してからしかわからない。癌というものは発症した後は先ほどいったような、治療、抗がん剤、治る人もいるけれどやはり苦しむひともいる。がん細胞がその部位に集まっているということ、キャッチするのは開発された唾液検査で、発症する前に「集まっている」ということが分かれば、それに対する代替療法があるんですよ。ビタミンCをより補給するとか、食生活を野菜中心にするとか、または温熱療法で治療するとか、ある程度、おさえられることができ、そういうものをドクター達が指導しますので、そういうのを今年、損保ジャパン研究協力費ということで、資金を出すというので、町民の皆さんに唾液のがん検診等の取り組みをしたいと思っています。町民だけでなく、町内の事業所の関係の皆さんにもしてもらわないと一緒にしようということで、この前損保ジャパンとドクターと話をしてきましたから、町内の小・中学校の学校の先生とかも検診ができますので、今特定検診とかもありますが、その前にもっといい唾液検査も一回やってみてもらいたいかなと思います。また、新年度に入りましたらご説明したいと思います。大変長くなりましたが、町としてはこのメディカルセンターを核として、ここにいろいろな目的で来ていただいた方に医療情報を健康なうちから入れていただいて、医療費とかもしなかった場合の備えをしていただくという趣旨の施設です。

あと、女子サッカーですが、公表していますが、こういう民間事業団が入ってきます。行政がいったんたてて、そこに民間が買って入ってきて、町の健康政策に協力していただくというプログラムであります。その一環でこれについて学校でぜひ設置をしていきたいと思っています。

それと、最後に「サッカーの町宣言」をしました。お手元の資料を見てください。女子サッカーのまち宣言とはどういうことかといいますと、佐賀県がスポーツ政策による新しい佐賀を作ろうということで、知事が強く推進してきました。三年後の国体で選手を佐賀県に移住してもらって、国体でいい成績をあげようというものもありますが、アスリートが頂点を極めたあとの、セカンドキャリアとかほとんどの選手が現役を引退した後の、生計が不安定なんです。だから日本のアスリートというのは、挑戦したくてもできない人も多いと思う。その中で、海堀選手について

議 事 の 概 要

ては、ワールドカップで優勝した時のゴールキーパーです。ご存知だと思いますが、彼女が今、慶応大学に在学しております。どういう研究をしているか、私が東京へ行ったときに、私に会いたいということで会いましたが、どこかで見たことあるねと思ひまして、名刺出されて海堀あゆみと書いてありました。ワールドカップで優勝された時のゴールキーパーの海堀さん？と。研究員として慶応大学に通われています。その方が研究員として入っている会社がリタジャパンです。久留米大学で今医学部の女子学部を作るプロジェクトをしています。元に戻りますが、海堀氏とか宮間氏とか、この間も有吉氏とかオリンピックに出るだろうと言われていた佐賀県出身の女子サッカー選手に会いましたが、みんな次の生活が不安で仮にオリンピックに出て、ちょっともはやされたとしても、その後の就職先とか、メンバーたちを中心にどういことを海堀氏が考えているかという、地方に移り住んで、地方の農業をしたり、学童保育の指導員をしたり、または小・中学校のサッカーを通じ語学経験をしたり、サッカーをしながら、人工芝の事業をしたりもしています。自分たちが地域に移り住んで住民や子どもさん出会うことによってそこからプロチームを作りたい、発足したい。今はプロ化しても勝てばスポンサーがつく、サポーターも多いです。負ければスポンサーが撤退する。サポーターから罵声・野次が飛ぶ、みじめな経験をしてきたから、女子サッカーが来年プロ化することは決まっています。先月田島会長に会ってきましたが、このプロジェクトをぜひ成功させてくれと。サッカー協会からもお願いがありました。水泳も優勝した、国としてもスポーツ政策に力を入れたいが手を挙げてくれるところがない、予算があるのでそれを使って何とかしてくれ、うちは佐賀県のスポーツを新時代ということで、その先駆けをするということで、大変期待をしています。長くなって申し訳ないのですが、まず国体にむけて4月から選手を20名程度このプロジェクトで町内の中学校に転校させるという説明会を2月から入れそうです。これは佐賀県のサッカー協会のメンバーが中心となって、リタジャパンとかとみやき町で一般社団法人を作って、近々立ち上げます。一般社団法人みやきスポーツコミッション、それは佐賀県や国と連携していますが、説明会をして転校希望の中から今取りだされておりますので、出てきた場合には多分北茂安中学校の方の方にご相談があると思いますから。何人転校するとかまだ決まっておりません。U-15、中学生を20名、みやき町にサッカーが得意な子が転校して、もしくは通学してくれ、その子たちに3年後の佐賀国体の中心メンバーにしよう。いい成績を上げさず、いい成績を上げさせた子たちをみやき町でプロ選手になる。日本がワールドカップ招致も手をあげておりますので、そこで、10年前に優勝したメンバーがみやき町に移り住んだりして、いろいろなことをしながら、後輩を育成していくプロジェクト、全国にいろいろな自治体を探すなかにおいて、なぜみやき町かということ、スポンサーがふるさと納税の企業版があり、今年から9割控除となります。法人税を国に1千万納めても、何もリターンもないのですが、みやき町に1000万寄付すれば900万控除ですから、100万は手出しでできますが、その100万でこのプロジェクトのオーナーというかスポンサーとなって、彼女たちはその企業の広告塔になる、今企業も先ほど言われたように、企業も貢献しないで今からは差別化される時代ですから、新たに企業投資して、社会貢献していかないと、生き残れない時代です。自分たちで何かするよりは社会貢献できる、ふるさと企業に寄付した方が安価であるというんです。より広告できると。資金繰りをやっていく。ここで、なでしこにできるようにしています。なでしこ特区の中に、みやき庁舎、こすもす館、さっき言いましたカゴメとか、無農薬と有機野菜とかの農作物を作る企業にここになでしこメンバーが経営者なり重要人として関わってくるというプロジェクトがありますので。長くなってすみません。まずはこれから学校はご理解くださいということですね、お願いします。

江頭 メディカルセンターの件で、今ビタミンの件、カイロプラクティックがビタミンを使って治療していくことをしていますよね。そうすると専門ですよ。薬ではないけれども、それを使っていろんな病気を治していくと、広くアメリカからどこかそういう内容のところ、どちらかというと、カイロの方は薬を減らすというか、薬が毒のある部分があるからそれをやめていこうというのがカイロの考え方であり、それがビタミンで、証明していくというか、そういう内容です。そこら辺のとにかく医学と反対のところにある知識があるけれど、薬を飲みよる人たち、とにかくそういう人がカイロをしているわけで、ビタミン関係の製品、それを使っていくと、カイロプラクティックの人たちも、薬。医学的な問題からすると。なんでかなと思っています。

末安 医学的な知識を持っているひともいるかもしれませんが。3か月間の検証もしておりますし。薬がいかに人間の体に害を与えているのかと、化学物質ですから。しかし、やむを得ない。まず病気を抑えるには薬や注射が必要なんです。これは否定したらいけません。これはこれで必要です。今の病気というのは遺伝子も変異していきますし、これに追いつくには自然界のものではと

議 事 の 概 要

うてい追いつけないので化学物質で新薬とか作っていかないといけない。基本はこれです。まず基本を言うと歴史では東洋医学ですときておりますが、東洋医学だけでは症状が悪化すると追いつかず化学療法も必要です。

江頭 このビタミン関係を扱っているところも入れられているんで。

末安 ビタミンの摂りすぎもあぶないんですね。DHCは30名以上のドクターと医療スタッフをそろえておりますが、それと糖尿病学会の蒲原先生にもここで研究してもらっている。サプリメントも摂りすぎは良くないこともあり、摂りすぎで逆に悪くなることもある。その症状に合わせて、サプリメント、漢方薬処方と一緒にです。その相談を受けるのが、まず溝上薬局というのが入ってきます。その人の症状に合わせて、それと、DHCが入ってきます。全部エビデンスというか、証拠を重ねた結果の商品です、成分もよそのメーカーより良いし、医学的なものを全部とれたものしか出ていませんから、DHCが一代でNo.1になっている。今通販でいっぱい出ているのは高いし、エビデンス証拠がないから何が入っているのかも分からないし、そこは新しいサプリメントが出て、ビタミンの補給の仕方、摂取の仕方をしらずにただ良いから飲んでる。効果はあるでしょうがお金のわりに、その相談をそこで受ける、私はこういったサプリメントを飲んでいますが、どうですかと。悪くはないけれども、摂りすぎではいけないし、あなたの症状はむしろ例えばビタミンEが欠乏しているとか、こちらがよいですよとか、症状に合わせたサプリメント処方相談をします。だからカイロプラクティックのことも知っています。特定のサプリメントメーカーと提携して、商品の中身そのものは良いですが、正直言って高いです。

江頭 これは良いものですか。

末安 その人にとって本当に必要ないものを紹介する人もいますけれど、特定メーカーしか勧めない人もいらっしゃる。話は長くなりますが、そういう相談も応じられるようなMIZUという溝上薬局があります。そこが相談を受けますので、カイロプラクティックでいい人もたくさんいらっしゃる。しかし、三か月講習を受けていまいちという方もいらっしゃる。正式な国家ライセンスがありませんから。医学部とか、看護学部とか、薬剤師とかではないので、良いひとか悪い人かの見分けがつきません。私が言っても、医者ではないので、良いドクターが定期的に来て、相談にのったりするをしていきますから。子どもがなぜ心が不安定かについては、ある程度ドクターによつての診断の仕方が違いますから、やはり三つくらい自分は医療機関を選択できたり、一か所の病院とドクターだけで、そこに病院には治療方針がいろいろあって、大学病院とか製薬メーカーが点滴をもらっていらっしゃる。そことの縁、ここの薬しか使えないようなシステムになっている。それはそれでいいですけど、3つ位自分が元気なうちにもし自分がこうなったらどこへ行こう、どこの病院へ行こうなど、セカンドオピニオンってご存知ですかね。自分自身でセカンドオピニオンを受けたいといわない限り、絶対医療機関はセカンドオピニオンをすすめません。中川原先生とって、重粒子線の先生で今前立腺とか、肝がんとか、肺がんについては切るより重粒子線がいいと判っています。切るより負担が少ないので。しかし、なかなか自分とこの治療方針で、まず決めてしまう。正しい患者さんが、私はどここの病院へセカンドオピニオンを受けたいと言ったことを拒めないという法律があります。自分自身にセカンドオピニオンを受ける権利があるということを知らない人もいるでしょうし、知っている人と知らない人では差が出てしまうということです。以上すみません。私の話が長くなりましたが、ご意見等ありませんでしょうか。

高尾 ありがとうございます。今後の仕組み等、いろいろなものを掛け合わせてきちんと取り組んでいきたいと思います。

森田 二つあります。北茂安に転入するということですが。

末安 可能性があるということです。

森田 サッカーの居住地をこちらの方で指定されるのかというのが一つと、それと日本中に周知をされてのことでありますが、もう一つがそこに外国人のお子さんが入ってくるのかどうかという2点になります。

末安 1点目はどこが受け皿かといえば、役場近くの料亭屋を想定しています。そこは町の栄養士が献立をして昼食サービスをしていらっしゃいます。だから町の管理栄養士が全部献立を作って、365日町内の独居老人等の昼食サービスをしています。栄養管理ということでは、作ってそこは2階がご夫婦でお住まいですから、1階のスペースを元宴会場ですからそこを寮に活用できないかと。中学生ですから保護者がわりにそのご夫婦を、自分の子どものように見たり、料理も町の栄養士が管理するものを作ってもら、庁舎に近い、一般社団法人の事務所が歩いて1分のところにある、空き家を改修しておりますので、そこに保護者を二階に泊めてもらう、そういう場

所を子どもも中学生ですから、その中学生だけを集団生活させるというわけにはさせられませんが、親代わりになる人がいる、食事もちろんとしたものを出す人がいる、なおかつ、庁舎の近くですから、私たちの目も行き届くと、北茂安中学校校区なんです。主体的な県のサッカー協会の女性委員長、この方が教員ですから、その方が中心的にされています。もともとその人を頼って、現在でも県内の少女サッカーや保護者の方がその先生を頼って指導を頂いているということです。その方がみやき町に移住するという強い思いをもっておられるので、指導者はその方になると思います。その指導者に生徒さんがついていきますから、すでに問い合わせがたくさんあるということ、量についてはそういうセキュリティも含めてしっかりしたところというのを想定しています。2点目、全国募集といっても、まずは町内です。まずは県内。それから隣接県からと、厳選します。20人以内にと。外国人の方は対象になりません。U-15というチームを作りますので、選考基準が厳しいです。サッカーだけ上手な子でもいかんし、学力もある程度ある人を、サッカーもできる人を、そう人をちゃんと厳選して、そこは学校の風紀を乱すというわけではなく、学校にとってもいい影響を及ぼすお子さん達しか選考されません。これは2月1日から選考が開始しますので、ある程度状況が分かった時点で、すぐ教育委員会に連絡がきます。本当に何人転校を希望されるか、希望されないか、というところですから、今のところ県内その先生を頼ってのことですから、神崎、佐賀あたりから多分JRで通学されるだろうと、寮に住まなくてですね。但し中学校は、北茂安中学校になると思います。ロールモデルを、お手本を作りたいなと思っています。サッカーを通じ地域に出掛けていってですね、みやき町のお子さんも、いいお子さんたくさんいらっしゃいますが、みやき町に移住したり、もっと見本になるようなことをしよう、そして成績もいいものをこのさうということ。これは町のプロジェクトではなく、国とか県の一つのプロジェクトになっています。また良い生徒さんを選ばれると思います。すみません、質問等ありますでしょうか。

古賀校 末安町長さんの話を聞いて、心と体の健康ということで、私も同感です。学校現場ではどんどん特別支援学級のお子さんが年々増えている、北茂安小学校のお子さんも40名ほどいるということで、そこは登校拒否の子どもたちも作ってはいけませんが、現実的にいる。心の問題というのは非常に大きいと思います。これから先5年の大綱を考えられていく中で、今日の町長様の話を受けて使わなければいけないかなと思いますので、理念からも心と体の健康づくりも、そういうところからみやき町の教育としていけばいいんじゃないかなと感じました。

末安 心と体が健康じゃないと、いい成績を出せませんからね。

古賀校 「知・徳・体」と言われますが「体」に焦点化して、そこからつながっていくという思いで、絞りが必要かなと思います。その事業も今までの事業と新しい事業を絡めて、もう一度たたき台を出していただいて決めていけばいいと思います。

末安 町としては心と体の健康を通して、学校にどういうことができるかということを中心に、学校側としてはまた語学力とか、ご意見をいただいて、よそにあるような、コンサルがかったものを押し付けるのではないですよ。先ほど先生がおっしゃったように特別枠があるような特色のあることをしますとかね、擬人化をなんとかではなく、放課後に塾に行けない人たちをどうするか、そのための指導者教諭補助をどうするかという話があれば、豊後高田が塾に行けない子が先生たちが廊下で変わるがわる学習支援をするなど、それをしろというわけではないが、そういうことをうちもやってみたい、そのための教諭補助がいるとか、そういう提案があれば予算をつけることもでしょうし、心と体の教育にもっと別枠でしたいとか。今教育委員会で受けているのは先生たちが大変だと、心の不安定な人、障害を持つ人が増えて来たんでということで、教諭補助や支援員をつけてくれということで、それは優先してということできています。その結果、よそよりちょっと多いですが、まだ十分でないまだまだわかっています。しかしその前に不安定なお子さん、原因は化学物質と言われています。生まれる前からお母さんの食べ物を取り入れて生まれてきます。生まれた後に、合成洗剤で洗った衣類を着ると、皮膚は免疫ですから、アレルギー反応がアトピーになるとか、1回なったら大人になっても続くとか、だからみやき町はマグネシウム洗剤(まぐちゃんせんたく)を売っています。今度テレビに出ますが、マグネシウム洗剤のその開発者から相談があって取り組もうということになりましたので、使っていただくと思います。洗濯に使っていただくと1年じゅういれっぱなし。合成洗剤と変わらないくらい落ちます。お風呂に入ると温泉の効能。マグネシウムと水がまざると水素が発生します。水素が除菌、殺菌、という特徴があります。そういう勉強も、みやき庁舎で島というものがおりますので。

江頭 すみません。先ほど心を一番におく、大切にするといわれましたんで、健康ですね、心の部分で

お話しますが、ボランティアとして貢献していくということもできますし、実践していくのが効果がありますから、それを実践することで心が豊かになっていく、それを各学校に取り入れてほしいですね。一つの例がここにありますので。三根中の子どもが率先してという、そういうのを一つとするなら、心がもっと豊かになっていくには、ボランティアを実践していく、そういう環境が必要ですし、だからボランティア団体をいかにするようになるかですね、子どもたちからそういう教育をしていかないといけません。

末安 精神教育論的な教育は今に通じないんですよ。これやれ、あれやれでは。結果としてそれに結びつくような前段があるんですよ。いきなりボランティア団体をしようとか、成功した事例ももちろんありますが、精神論から入っても今は、子どもたちも含めて今はなかなか、昔は兵隊教育を受けた人は精神論から入れば、その親とか近所のおじさんとかモチベーションがあるのですが。

江頭 喜びだと思えますよ。喜びがあったから、子どもが喜んでいたら。周りの人がそれをみて、心が豊かになってきたんですよ。今までやらされていた子たちも少しずつやるようになってきた。そういう風になってくることで、環境ができるということですね。

末安 おっしゃるように、社会に役立つということが人の喜びになりますので、免疫をあげることもありますので。そういう前に、熱を出さない子をつくろうとか、インフルエンザにかからない子をつくろうとか、朝食をきちんと摂らせることで精神を安定させようとか、そういうことをして、その後にボランティア精神とかが育まれてくると思うんですよ。いきなりボランティアしましょうとか、根本的な原因を探求していかないとボランティア活動につながってこないと思います。やることは根本的な原因を究明し、探求しながら、心と体が健全な子どもを育てば当然結果としてボランティア活動ということで広がって行って、それが全体に広がっていく、いきなりボランティア活動というのは。私の役割としては心と体が健全な子どもを育てることかなと、そっちらからはいます。あとは学校とか地域社会の中ではボランティア精神というのはけっこうです。

江頭 東小はそういうものがなかったんですよ。東小はボランティアのちょっとしたところから始まって、その挨拶をすることから始まって、地域の方が喜びを感じるからですね、そういう喜びの中にあるので、一つのきっかけは全部その心がここにあるかとか、そういうところから始まっています。

末安 私にもいろんな方がいらっしゃってたくさんのお考えをもってこられます。まずあなたがやってみてくださいとお願いしています。論ずることは誰でもできるんですよ。こうすればいい、ああすればいい、それを実際やる人を、江頭さんは自らサポートをされているから説得力がある。そういう同志を募ってしてください。江頭委員がいろんな青少年活動をされてたことが成果をあげている、それは江頭さんがずっと生きていく限りはしてほしいなと思っています。学校は校長の役割があり、教育委員会は教育委員会の役割、我々は我々の役割がありますので、江頭さんもぜひボランティア会長になってもらったらいいわけですよ。ぜひ、委嘱してもいいですよ。学校ボランティアをよくする会会長とかですね。提案した人が責任をもってやってみてください。大変すばらしいので、ぜひやりましょう。学校ボランティア推進会長、良いことですね。またあとゆっくり話をしましょうか。先生たちお忙しいでしょうから。長く話をさせていただきましたが、町として、まずはできることは学校設備の充実、やるべきところはやる、または年次計画でもやっていきます。それと先ほど申し上げたように今年とはくにインフルエンザとか、ノロウイルス防止につとめ、これを用いてできないかと思っています。ぜひ実証をさせてもらいたい。それを大学が来て実証データとして出れば、効果があれば全国的にお知らせもできると思います。それと心について、いろいろなドクターとかかわる中で、化学物質に日本は汚染されすぎていると、アメリカは 320 種類の化学物質がまだ規制されていないんですよ。アメリカは厳しい国ですけども。発達障害的な人も増えてきている原因が、化学物質の摂取のしすぎと言われており、ちょっとしたきっかけで遺伝子の中でも悪い遺伝子が量産していくらしいです。みやき町の方が、化学物質をあまり活用しない生活をされるといい。そのために学校給食を町でやると決めたのが、安心なものを、保護者に負担を求めるなら、金額もありますので、できるだけ町の食材で今からお願いしたいと思っています。

以上を持ちまして 1 回目を終わらせたいと思います。

北原 あと、たたき台を作りまして、定例の教育委員会と、定例の校長会で話をさせていただきたいと思います。

末安 先生方にもご意見とか出してもらいましょう。それをまとめて、教育委員さんにも。考え方も

	<p>う少し出してほしい。合併した時のスローガンをそのまま使っても。</p> <p>北原 次回総合教育会議についてはまた案内をしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>高尾 本日は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。会議の途中にございましたように、本日の内容を参考に、また案を作ってお示するというので、今後の日程については後日教育委員会学校教育課からご連絡をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p>
<p>会 議 録 作 成 者</p>	<p>課長 北原 順二</p>